

Title	反町文書(三)
Sub Title	The Sorimachi manuscripts (which once belonged to the Sorimachi family, now possessed by Keio University library) : their transcription and comments
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1959
Jtitle	史学 Vol.32, No.3 (1959. 11) ,p.131(375)- 138(382)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19591100-0131

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

五四、大友宗麟書狀 (12.5×46.5)

前廿三、於佐賀表古瀨原口、合戰之砌、自身被碎手之

由、御粉骨無比類候、雖無申迄候、彌家中之人等
被申進、可被勵馳走事、賴存候、必取靜、可顯其

志之趣、猶戶次伯耆守可申候、恐々謹

卯月廿八日 宗麟(花押)

蒲池勘解由使殿

五五、大友宗麟書狀 (24.5×31.5)

爲今年祝儀、太刀一腰并嶋織一端送給候、祝着候、從

是茂一振進之候、猶、田原近江守、可申候、恐々謹

申、

三月廿七日 宗麟(朱印)「印文、非」

蒲池勘解由使殿

五六、武田勝頼朱印狀 (45.5×31)

定

先御判形之皿、自今已後茂、聊不可有御相違之由、
被仰出者也、仍如件、

天正二年甲戌

左衛門佐奉之

三月廿四日(朱印)「印文 龍」

平尾三右衛門尉殿

五七、足利義昭御内書 (20.5×42.5)

當國下向之事、對輝元、度々雖申遣之、織田依相談、
加思慮之由、被聞食候、然者信長逆意既露顯條、先
至、納相越候、此節急度令意見、馳走肝要候、於京都、可
抽忠節皿、每度令皿上、此中疎略之躰、無是非、次
第候、委細申、令上野大和守、小林民部少輔候、猶昭光
可申候也、恐々謹

(三七用)

一一一

(天正三年)
十一月八日
(花押)

(義昭)

安國寺

五八、織田信長朱印狀 (折紙) (47×14.5)

今度遠州在陣衆兵糧之事、所々へ雖申遣候、當郡内之商人共ニ被申付、商賣之八木船にて可_レ届候、いかにも順路ニ可_レ申付候間、以ニ其旨、商人共ニ急度被申付、可_レ然候、不可_レ有油斷候、恐々謹言、

六月五日

(朱印)「印文天下布武」
信長○

佐治左馬允殿

五九、織田氏奉行奉書 (26×30)

信長御斷子細候条、先此折り帝、志賀郡へ可_レ被_レ遣候、

以_レ面可_レ申候、恐々謹言、

十月廿日

(森)可政 (花押)

六〇、豊臣秀吉書狀 (折紙) (14×62.5)

尙以_レ丈夫ニ可_レ被_レ相分候、此口之事ハ

〔〕今度一揆蜂起候在々悉以被成敗放火候由、此方城之儀ハ來年出馬道無異儀様ニ丈夫兵糧以下可_レ申付候、其方注進申候、又孫宿をハ先々機崎ニおかれ候べく候、〔〕

重而令_レ申候、岩根江_{（垣谷）}なき城として、あい山、可_レ然所之由候、然者委細垣播可_レ被_レ申候間、兩三人談合候て、普請被_レ申付、垣駿人夫以下家中者迄丈夫ニ被_レ相分候て可_レ被_レ入置候、左様ニ候者、垣駿ニ三百人之兵糧可_レ被_レ〔〕久藏かた〔〕可_レ被_レ相渡候、委細垣播る可_レ有_レ演說候、恐々謹言、

九月廿五日

秀吉 (花押)
藤吉郎

(中川)
重政 (花押)

(和田)
惟政 (花押)

六一、豊臣秀吉書狀 (折紙) (13.5×44)

猶々此表之事、御氣遣有間敷候、其地働之様子相聞候、委細一書ニ被^レ仕、追而可^レ被^レ申越候、以上、

改年之慶喜、追日不可^レ有^ニ休期候、

一、此表之儀、去六日三木從^ニ城内三十間斗、南宮山之城乘取、惣町中押破數多討^ニ捕敵候也、へり七ツ取申候て、其まゝ十間十五間之間^ニ取詰、惣廻屏柵四重五重申付候事、

一、同八日夜、藝州雜賀之者相拘申候、濱際^ニ候魚住与申城、此表^(ママ)鄉音を以、こほれ落申候處^ニ此方者懸合數多討捕申候事、

一、同十日夜、しかたの城并御着之城、明退申候處、彼近所^ニ置候、神吉、そね、姫路者共追付、數人討捕申候、依^ニ夜中、悉不^ニ討捨候事、

一、同十一日午刻^ニ三木本城と堀一重^ニ候、鷺山と申構乘崩、并別所彦^(カ)進城、同山城守居城乘破、是又數多討捕候、山城構^ヘハ小一郎入置申候、同彦^(カ)進城鷹之尾と申^ニ

我等令^ニ入城候事、

一、別所小三郎丸一ヶ所責寄申候間、落居不可^レ有^ニ幾程^(カ)候間、可^レ被^ニ心安候歟、追々可^ニ申承候、恐々謹^ム、

(天正八年) 正月十四日 羽藤秀吉 (花押)

(カ)(カ) 奈佐左衛門(カ)(カ) 殿

六二、豊臣秀吉朱印狀 (切紙) (38.5×11)

一、本丸之外、門惣間普請之儀、我々出陣候て以後如何程出來候を、一々書立候て可^ニ相越候事、

一、竹之儀、年來小野木かたへ相渡候者、得^ニ其意候、何も追々可^ニ申越候、將亦此表之儀、弥以屬^ニ存分候條、可^ニ御心易候、恐々謹言、

卯月十六日 筑前守秀吉○「朱印」

六三、明智光秀白筆書狀 (22.5×34)

我等儀、今日出陣仕候、仍新町用所事、於有之者、其方へ參、申鎧候(カ)へ由申付候、然者頼入候、恐々謹言、

五月九日 光秀（花押）

（ウハ書）

曾兵れい人々御中 明十兵
光秀

以上

六五、上杉景勝黒印狀 (45×43)

丸川のおか地、まいらせ候、丸へ～地まるへ、しかるべく候、めてたゞ、以上

天正十年壬午
十月吉日
〔黒印〕

おはまく
まご

六四、織田信雄知行狀 (36.5×51)

領知方四拾壹貫文事、當知行上、全領知不可可有有相違、
之狀、如レ件、

天正拾年
七月廿四日 信雄（花押）

山田七郎五郎

六六、徳川家康領地朱印狀 (29×48)

甲斐國法華寺領上村内拾參貫文之事、右領掌不可可有有相違、之狀、如レ件、

天正十一年
四月十九日〇朱印「田文 福徳」

法華寺

田錄

一、卅貫文 大野主水分、
一、五貫文 むしり方所々、
一、六貫文 但淺井小二郎分
名田ノ船德分、

六七、北條氏政書狀 (斐紙) (43×32)

卯月七日之一札、今十六到來畢、抑至于大須賀相移由
驚入候、其以來一切無音之間、無心元候處、于今勇
健、先肝要候、就中、下總中廻文之儀、當時弓矢取中、細
少之儀も、軍役之外別條之儀、諸卒下知遠慮候、然者、
自幼少之砌、存知之者候間、令窄人進退至手不成
者、渡世之儀者、可申付候、心安可存候、漸可爲
極老候、小田原迄來儀、定可爲苦勞候、奥下總成
共、又、作倉邊成共、先一廻者居住、世間を可聞合
候、扶助之儀者、可申付候、只今、男女召仕之者、手
元有之分、委細所望之分際相記、重而可注進、其
上印判を可遣候、猶松田可申遣候、謹言、

卯月十六日 氏政 (花押)

六八、毛利輝元書狀 (31.5×48.5)

相杜上表之地遣候、公役之儀、堅固可相懃事、肝要候、

反町文書

猶松源次可申候、謹言、

天正十六 三月十一日

輝元 (花押)

(ウハ書)
(捺封)
堅田彌十郎殿、 輝元

六九、伊達政宗領地朱印狀 (折紙) (30×51)

一かな川

一三つはし

一しほ川

一べつふ

一はまさき

右、五ヶ所くたしおき候、くへしく、せうなこん=あひ
ル=はり候、仍如件、

天正十七年己酉拾月十九日○ (朱印) 「印文・竜納」

片倉小拾郎殿

候也、

天正十八年正月 日 ○ 「朱印」

七〇、豊田秀吉朱印寄進狀 (檀紙・折紙) (63×23)
八幡庄内六拾九石、令_レ寄附_レ之訖、可_レ全寺納_レ候也

天正十七
十一月十九日○ 「朱印」

八幡山
龍本坊

七一、前田利家黒印狀 (折紙) (16×47)

今度當町陣取付而、宿之儀造作共、令_レ祝着_レ候、然者能
賀越中三ヶ國ニテ何様雖、有_レ商買_レ不_レ可_レ有_レ諸役_レ者
也、

也、

七一、豊臣秀吉朱印定書 (檀紙) (42×60)

定

信州檜井
原孫右エ門殿

天正十八
三月十三日 利家 (黒印)

一、軍勢味方の地にをいて濫妨狼籍之輩、一錢ありたる
くき事、

一、於_レ陣取_レ火を出族在_レ之は、からめとりいたすくし、
自然ちくてんせしめは其主人罪科たるくき事、

一、糠、わら、たき_レ、れんし以下、亭主に相理可_レ取

之事、

右、条々若令_レ違犯_レ者、忽可_レ被_レ處_レ嚴科_レ旨、被_レ仰出_レ

當知行分ひら嶋之内を以、百四拾四貫六百文、任_レ御朱印
之旨、所務等之儀、可_レ被_レ申付_レ候、中納言様被_レ成_レ御

座次第ニ御書相調、重而可^レ進之候、恐々謹言、

天正十八年

田中兵部太輔

九月九日

吉政(花押)

山田七郎五郎殿

まいる

年内無^ニ餘日^一候、來年二月始比、至于名護屋、舟共悉
可^レ被^ニ指越^一之候、成^ニ其意^一、不^レ可^レ由斷^一候、作事模様、
彼是具可^ニ申上^一候也、

十二月一日〇 「朱印」(田文 豊臣秀次)

七四、蒲生氏郷袖判知行目錄 (34×24)

(花押)
(氏郷)

古屋喜左衛門尉知行目錄

貳百四拾石八斗七合、大沼郡
尾役ノ内 東窪

三百五拾九石壹斗九升三合、津きの木橋村ノ内ヨリ

合六百石者、

天正十八年九月十一日

尙以兵糧之儀大坂にて可^ニ相渡^一之由雖^ニ申候^一、堺^ニ取
らせ先陣にて可^ニ相渡^一候間、可^レ被^ニ得^ニ其意^一候、以上
積善寺之儀、早々令^ニ落居^一候條、明日我々令^ニ陣替^一候
間、皆々儀、志たち、鳥取まで可^レ被^ニ陣替^一候、不可^レ
有^ニ油斷^一候也、

戊刻 三月廿一日 秀吉(花押)

長谷川藤五郎殿

稻葉彥六殿

七五、豊臣秀次朱印狀 (折紙) (45×57)

船作事之様子、爲^ニ可^レ被^ニ聞召届^一、使者を被^ニ指遣^一候、

牧村長兵衛尉殿

甲賀衆

五月七日

秀吉 (花押)

七七、豊臣秀吉書狀 (28.5×43)

久大仁相付分

千石 布施久兵衛

七百石 吉田孫介

百七拾石 口分田九兵衛

百七拾石 蘭田左京

百八拾石 鈴木刑部

百五拾石 加賀野清右衛門尉

百七拾石 中川又右衛門尉

貳百三拾石 關戸彌十郎

百五拾石 水野太郎左衛門尉

貳千石 葛巻十左衛門尉

以上五千石

右分、如ニ書付、可レ被ニ相渡ニ候、但不奉公者ハ、其方覺悟次第たるヘく候、

尾張國海東郡中、一色村之内、貳百貳拾五石之事、令ニ扶助ニ之訖、全可ニ領知ニ候也、

文祿四

八月八日 (朱印)

山田七郎五郎
とのへ

七九、結城秀康黒印知行狀 (36×45)

宛行知行分之事、

高百石者、

右分、無ニ相違、可レ令ニ領知ニ之者也、仍如件、

文祿五丙申年極月廿二日 (黒印) (秀康)

野本九藏とのへ